

世界とつながるあいさつ

—礼儀の国、日本より—

3年B組19番 川瀬利那

- ・座礼…座った姿勢での礼
- ・黙礼…黙って礼をすること
- ・立礼…立った姿勢での礼
- ・目礼…目を伏せ、軽く上体を前に傾ける
- ・庭の礼…来客の際、玄関から出て庭で客の見送りをすること
- ・挙手注目の礼…警察官などが手を額の横に当てる礼
- ・お辞儀…頭を下げて行う一般的な礼

① 最敬礼；45度 ②普通礼；30度 ③会釈；15度

- ・礼三息…息を吸いながら腰から上を前に倒し、止まったところで息を吐き、そして、再び息を吸いながら元の姿勢にもどる動作のこと
大変丁寧な印象を与え、精神状態を落ち着かせる効果もある

(2) 中国の礼

古代では、礼が一般的だったが、現代では握手が用いられている。

- ・鞠躬(チューゴン)…極めて強い謝罪、又は感謝のときにする深々と頭を下げる礼

(2) 韓国の礼

日常的にも行うが主に、家族の行事や記念日の時に行われる場合が多い。

- ・クンジョル…誕生日などの祝宴の際に目下の者が目上の人に対してする敬礼
日本の土下座に似ている
- ・チョル…深く頭を下げて目上の人にする敬礼
- ・半ジョル(パンジョル)…目下の人の敬礼に答える礼
- ・平ジョル(ピョンジョル)…年齢や身分にさほど差の無い人同士が向かい合っ
て交わす軽い敬礼

(3) タイの礼

仏教に関する礼が多い。

- ・ワイ…胸元で合掌(※少し膨らます)して微笑しながらお辞儀する
※仏教と縁の深い蓮花の蕾を表している

(4) ブータンの礼

合掌してお辞儀(ワイ)が一般的。

「ディグラムナムジャ」と呼ばれる礼儀作法規範が重んじられている。それにより、目上の人には礼節を尽くして丁寧にお辞儀しなければならないとされる

が、そのお辞儀の角度が、相手の地位によって決められている。

3, 握手について

二人の人が出会った時や別れ際にお互いの手を軽く握り合う動作のこと。
イスラムの習慣で、利き手を制することで武器を持っていないことを表現している。

【使用国】 ほぼ全世界 東アジア；礼のほうが一般的
欧米、アフリカ；握手が一般的

(1) 日本の握手

ビジネスでの握手が多く、日常的にはほとんど用いられない。その際、頭を下げ(礼)、相手と目をあわせないことが多い。

(2) 中国の握手

握手は一般的。
中華人民共和国成立以降に欧米から取り入れられた。
・拱手(ゴンショウ)…自分の右手と左手のこぶしを胸の前で合わせる握手
昔、使用されていた

(3) 欧米・アフリカの握手

握手は一般的。相手の目を見て握手を交わすことが、基本。レディーファーストが重視されているので、女性から男性の順で握手をする。又、握手を求められたら、男性は必ず起立、女性は座ったままで良い。

4, ハグについて

一人または数人の他人を腕で抱え込むか、その回りに腕を回す動作のこと。
握手をするだけでは安心できない場合、相手をだきよせ、背中をたたいて武器を隠し持っていないか探ることを表現している。

【使用国】 欧米(得にラテン系、スラブ系)

(1) 欧米のハグ

愛情を示す行為でもある。
・カドリング…心地よい姿勢で長い間ハグすること
・スプーニング…カドリングの一つ
抱く人と抱かれる人が同じ方向を向くこと

5, 接吻について

唇を相手の額や頬、手の甲などに接触させる動作。キス。

互いの頬を舐めあい、その肌に含まれる塩分を吸収する、という栄養面の理由からきている。

【使用国】 欧米(得にフランス)

(1) 欧米の接吻

頬にする場合が多く、実際はリップ音をたてているだけの「ビズ」が多い親しくなり行い、男性同士では行わない。

- ・ビズ…頬同士を接触させ、右、左と両方ともにキス（リップ音をたてることが多い）をすること
地域により回数が違う

(2) ロシアの接吻

男性同士でも行われる（得に東スラブ系）。

III 考察

“あいさつ”の「礼」はアジアで一般的。「握手」は欧米、アフリカ、中国で一般的。「ハグ」と「接吻」も欧米で一般的なことが分かった。

何故、こうも“あいさつ”に違いが見られるのかは一つ目は「パーソナル・スペース(個人空間)」だと考えられる。パーソナル・スペースとは、なわばりともいわれ、自分のパーソナル・スペースに侵入されると息苦しさも感じるという。欧米人やアフリカ人が体を密着させる“あいさつ”が多いのは、このパーソナル・スペースが狭いからだと私は考える。一方、日本人や韓国人などのアジア人はパーソナル・スペースが広いのだろう。だから、アジア人の“あいさつ”に「ハグ」や「接吻」がみられないのだろう。

二つ目は「宗教」だと考えられる。

【図1】



【図2】

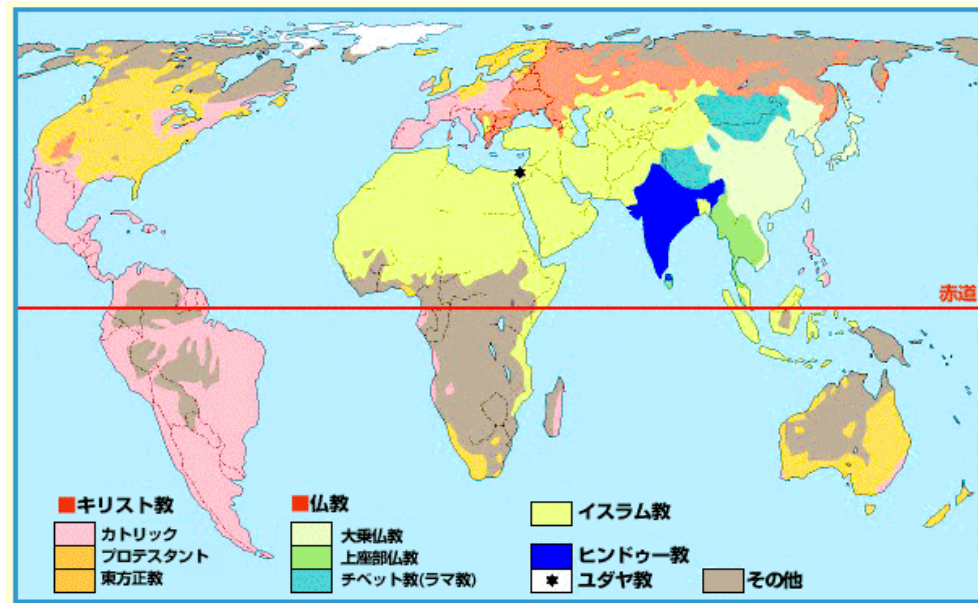


図1と図2を比較すると、宗教が同じところはほぼ同じ“あいさつ”がされている。やはり、宗教が同じだと習慣も統一されるのだろう。

三つ目は「歴史的背景」だと考えられる。ほとんどの“あいさつ”は戦争の名残がある。中国はアジアなのに「握手」が一般的になっているのはアヘン戦争やドイツなどの欧米の国々の長年に渡る租借が関係していると考えられる。それにより、中国に欧米の“あいさつ”である握手が流入したのだろう。日本であれほど礼の種類が豊富なのは「鎖国」と「島国」による「ガラパゴス化」だと考えられる。前述の事柄で独自に発展していったと思う。同じ島国のイギリスの握手が独特になっていないのは、植民地政策などで他国との交流が盛んだったからと推測される。むしろ、アフリカの国々に握手を広めることに従事したのだろう。又、ハグがラテン系、スラブ系に顕著なのはナチスの「ナチズム」からくる迫害からだとも推測される。ハグをすることで、相手の体を探り武器の有無を確かめ、自分たちの安全を図ったのだろう。同じ、迫害されていたユダヤ系にハグがみられないのは収容されていて他人と接触する機会があまりなかったからだろう。

IVおわりに

レポートをまとめ終わり、私は、日本の“あいさつ”は複雑な経緯で今日に至っていることを痛感した。それと同時に日本人であることに誇りを持つこともできた。これからは、一礼々々に心が込められそう。作成にあたり、ご助力下さった先生方、本当にありがとうございました。

- V参考文献
- ・国民性の違いがはっきりわかる本
 - ・行儀作法の本
 - ・ウィキペディア
 - ・サーチナ
 - ・探検しよう！みんなの地球
 - ・韓国観光公社公式サイト

